

(3)HPV 検査

ヒトパピローマウイルス (HPV) は、成人女性の殆どが一度は感染するといわれるごくありふれたウイルスであり、感染しても多くは自然消滅する。

高リスク型 HPV の持続感染は子宮頸がんの原因となることがあるが、高リスク型 HPV に感染しても子宮頸がんになるまでに長期間（平均約 6～10 数年）かかるため、定期的な検査は子宮頸がんの早期発見に有効である。

細胞診と同時に採取した細胞を用いて HPV 感染の有無を調べる検査である。

HPV 陰性(－)の場合：現在は、HPV に感染していない。しかし今後、感染を引き起こすこともあるため、細胞診で異常がない場合でも定期的な検診が有効。

HPV 陽性(＋)の場合：細胞診に異常がない場合も経過観察が必要。
細胞診で変化や異常がある場合は要精密検査。

※HPV 陽性であっても多くは免疫力で自然に消失するため、定期的な検査で持続感染していないかを調べることで、将来、子宮頸がんになるリスクの大小を確認できる。

<子宮がん検診HPV検査判定結果>

① 1日人間ドック

	～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	合計	比率(%)
陰 性(－)	14	227	622	563	353	78	4	1861	92.2
陽 性(＋)	2	32	66	37	15	4	1	157	7.8
受診者数	16	259	688	600	368	82	5	2018	100.0
陽性率(%)	12.5	12.4	9.6	6.2	4.1	4.9	20.0	7.8	

② 2日人間ドック

	～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	合計	比率(%)
陰 性(－)	1	23	78	77	21	6	2	208	90.4
陽 性(＋)	1	2	10	4	1	3	1	22	9.6
受診者数	2	25	88	81	22	9	3	230	100.0
陽性率(%)	50.0	8.0	11.4	4.9	4.5	33.3	0.0	9.6	

③ 施設内健診（協会けんぽ含む）

	～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	合計	比率(%)
陰 性(－)	5	50	74	37	17	3	0	186	89.0
陽 性(＋)	0	5	15	1	1	1	0	23	11.0
受診者数	5	55	89	38	18	4	0	209	100.0
陽性率(%)	0.0	9.1	16.9	2.6	5.6	25.0	0.0	11.0	

④ 施設外健診（協会けんぽ含む）

※施設外健診（協会けんぽ含む）の受診者なし

⑤ 全国健康保険協会管掌健康保険生活習慣病予防健診

	～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	合計	比率(%)
陰 性(-)	1	33	44	27	15	2	0	122	89.7
陽 性(+)	0	2	10	1	1	0	0	14	10.3
受診者数	1	35	54	28	16	2	0	136	100.0
陽性率(%)	0.0	5.7	18.5	3.6	6.3	0.0	0.0	10.3	